



保育所調理室で作る離乳食を提供。調理法やアイデアも紹介している

学校法人札幌学園真駒内幼稚園では、10年以上前から独自に「未就園児親子の集い」を実施してきました。現在は同法人が同じ園舎で運営する認可保育所「遊・Win g」と連携・協力し、それぞれの

幼稚園

**学校法人 札幌学園
真駒内幼稚園**

南区真駒内曙町

子育て ■社員参加 ■機会創出

子育て中の親同士が交流できる場から「人と人のつながりの大切さ」を発信

「ファミリーベビー」は特徴的な活動のひとつ。保育所の離乳食の試食や簡単な工作など、同園教諭と保育士が内容を工夫しながら毎月開催しています。人手、時間、費用を要しますが、参加者に喜んでもらうことを原動力に、笑顔の輪を広げています。

親子の集いのなかでも0〜1歳児とその親を対象にした「ファミリーベビー」は特徴的な活動のひとつ。保育所の離乳食の試食や簡単な工作など、同園教諭と保育士が内容を工夫しながら毎月開催しています。人手、時間、費用を要しますが、参加者に喜んでもらうことを原動力に、笑顔の輪を広げています。



「お母さま方に少しでもくつろいでほしい」と岡内副園長（写真中央）



環境教育情報紙「エコチル」は市内小学校に毎月10万部無料配布

「子どもたちから始まる環境活動の輪」をテーマに、エコチル事業を展開するアドバコム。プロモーションの力で社会的課題解決に貢献することをミッションに掲げ、行政・学校・企業を巻き込んだ

広告代理店

株式会社 アドバコム

中央区南2西1

教育 ■機会創出

社会的課題の解決にビジネスで挑む環境に関する「エコチル事業」を展開

「『エコチル』を発行し続けることは、将来、環境保全を積極的に考える大人が増えることにつながる。ユーザー、スポンサー、地域社会をエコで結びつけ、それぞれに有意義な価値を創造し提供し続けたい」と白井純信代表取締役。

大きなうねりを生みだし、環境コミュニティの形成・拡大に取り組んでいます。その核となるのは、平成18年から市内の小学校に配布する月刊フリーペーパー「エコチル」。紙面のみならず、イベントやテレビ番組などを通じて、環境情報の発信・普及啓発を図っています。



NPOなどと連携し、環境教育を目的にエコチルイベントを定期的を実施



花育の一環として、東区の保育園にてジャガイモ植えをサポート

札幌を拠点に道内各地でフラワーショップを展開するフラワーショップいしざかは、平成22年に創業20周年を迎えました。この節目の年に「社会への恩返し」という気持ちを込めて独自に立ち上げたの

花き小売

**有限会社
フラワーショップいしざか**

東区中沼町

教育 ■人材活用 ■機会創出

花を通して地域コミュニティを元気に 創業20周年を機に独自の活動を始動

企画営業部の三船力さんは、今後の展開について「企業やNPOなどとも連携し、活動を発展させていきたい。各店舗でも企画を進め、人と人とのつながりを生むような新しい花屋の形をつくられたら」と話します。

が「FS（フラワーサポーター）運動」です。社員のボランティア活動であるFS運動では、花を用いた教育活動支援やフラワー教室の開催、まちづくりや観光におけるイベントへの協力などを実施。この運動により、花を通じた地域コミュニティの活性化を目指しています。



全道に約60店舗（アークスグループ店舗内）のフラワーショップを展開



人気の健康体操のほか、福祉施設や介護をテーマにした講座も好評

毎月第2土曜日に開催している「パウロにつこりクラブ」は、平成19年からスタートした地域住民対象の医療福祉公開講座。ドクターやナースが講師となって話をするほか、理学療法士の指導で健康

病院

**医療法人 中山会
新札幌パウロ病院**

厚別区厚別東

福祉 ■社員参加 ■技術提供

地域住民に向けた無料の医療福祉講座 体操や温泉を取り入れ、楽しめる内容に

「マンネリ化しないよう頭を使って」と話します。また、受講者に毎月足を運んでもらうため、スタンブカードを配布する仕組みも導入。1年間休まず参加した人には粗品をプレゼントするといった工夫もしています。

体操などを行っています。受講者は講座終了後、施設内にある温泉を利用できるという、うれしい特典も付いています。活動を継続するうえで最も苦心するのは「講座のテーマ選び」と種村洋一地域医療部副部長。長く続けるとネタに詰まることもあり、同じテーマでも切り口を変えるなど、



会場は病院に隣接するデイサービスセンターばうろ温泉の1階ホール



結果があまりに良かったので翌年、2台目も購入した生ごみ処理機

大正から続く老舗の仕出し屋、喜久一では、食品廃棄物や割り箸のリサイクルに取り組んでいます。きっかけはラジオ番組でごみのリサイクルの話聞いたことでした。「毎日大量に出る生ごみを前

料理・弁当仕出し

喜久一本店

中央区南13西8

環境保全 ■物品提供

きっかけはラジオ番組で聞いた話 生ごみや割り箸を独自にリサイクル

銭湯で焚き付けに使ってもしっかりしています。「新聞で、子どもたちが近所の飲食店で廃棄される割り箸を収集し、製紙工場に持って行って」という記事を読んで思い付いた」といいます。今後は植林活動にも取り組む考えです。

うまく処理する方法はないかと考え、生ごみ処理機購入を決断した」と伊藤隆彦専務取締役。処理機導入後はごみの量が随分と減り、できた堆肥はミニ菜園に利用したり、知り合いの農家にあげるなどして有効活用しています。



割り箸のほか、サケの箱やカマボコの板など意外と多い木材ごみ

一方、回収されてくる割り箸などの木材ごみは、近所の銭湯で焚き付けに使ってもしっかりしています。「新聞で、子どもたちが近所の飲食店で廃棄される割り箸を収集し、製紙工場に持って行って」という記事を読んで思い付いた」といいます。今後は植林活動にも取り組む考えです。

花き卸売

株式会社 阿部花園

白石区流通センター

教育 ■社員参加 ■物品提供



「子どもたちは泥遊びをする感覚で楽しんできた」と阿部代表

子どもたちに花や土にふれる機会を 保育園での花育活動をスタート

阿部代表は「思っていた以上に子どもたちが喜んで参加し、花を可愛がってくれて、うれしく思っている。今後は花育活動を会社の経営理念に位置付け、コツコツと長く続けていきたい」と話します。

阿部花園の阿部哲也代表は平成22年春、孫が保育園に通い始めたのを機に、園児に向けた花育活動を始めました。「子どもたちに花や土にふれる機会を与えたい」と保育園に申し出たところ、快諾を得て実現したといえます。



園児と阿部花園のスタッフで植えた花。保育園で大切に育てられている



20チームが熱戦を展開した「第1回アジャタ（玉入れ）小学生大会」

札幌大学では、大学が所有する知的・人的・物的資源を地域のために活用しようと、幼児から高齢者まで誰もが文化、スポーツを学び、楽しめる「札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブ」を平成21

大学運営

学校法人 札幌大学

豊平区西岡

その他 ■人材活用 ■物品提供

スポーツ・文化総合型クラブを設立 世代間交流で元気な地域づくりに貢献

会員は小・中学生とその保護者、高齢者が多く、9割以上が豊平区の住民。同大学では地域交流、世代間交流の場として「より多くの人が参加できるプログラムづくりや施設環境の充実を図っていきたい」としています。

年に設立。教職員、学生、地域の住民が連携して運営・活動にあたっています。



豊平区と連携し実施した「親子でReフレッシュ!」には93人が参加

同大学の施設で行うプログラムは各種スポーツ教室や講習会、楽器体験会、吹奏楽コンサートなど多種多様。特別支援学級・学校の児童生徒を対象に「チャレンジド・スポーツ教室」も開催しています。

農業協同組合連合会

**ホクレン農業協同組合
連合会 本所**

中央区北4西1

教育 ■機会創出



“農”感塾に参加した小学生が生産者のアドバイスの下で田植えに挑戦

ホクレンでは、食育活動として、株式会社農協観光とのタイアップによる農業体験バスツアー「ホクレン「農」感塾」を平成20年からスタートさせています。

この取組は、親子で農業や

「食」と「農」の大切さを広く発信 北海道の発展に向けて様々な活動を支援

このほか、毎年秋には札幌市を通じ、新米4トンを児童福祉施設に贈呈。また、北海道の地域活性化や青少年の健全育成を目指し、スポーツ大会や少年スポーツ活動、文化活動に協賛し、オフィシャルスポンサーとして北海道日本ハムファイターズなどを支援しています。

酪農の生産現場にふれる機会を設け、農業の果たす役割と重要性、食べ物の大切さや農産物への理解を深めてもらうというもの。札幌近郊の親子を対象に田植えや稲刈り、野菜収穫などのプログラムを年6回実施しています。



昭和61年から少年野球大会に協賛し、青少年の健全な育成を支援

● 本業を活かす

各種教室開催

無料演奏会

寄付付自販機

就労体験

自動車中古部品販売

石上車輛株式会社

豊平区月寒東

環境保全 ■社員参加

「自動車リサイクルの森」
廃車1台で1本の木を植樹
 一般ユーザーから引き取った廃車1台につき、カラマツ1本を美幌町に植林し20年間管理する「自動車リサイクルの森プロジェクト」を平成20年に始動。「リサイクルを通じて地球環境に貢献」というコーポレートスローガンの下、長期的な視点に立った活動に取り組んでいます。

これまで約9千本のカラマツを植樹



音楽教室運営

ハート音楽院株式会社

中央区大通西2

文化芸術 ■社員参加 ■技術提供

生の音楽にふれる機会を20年以上継続する演奏会
 福祉施設や幼児教育機関からの依頼を受け、出張演奏会を行っています。演奏会は学院の講師陣によるピアノやギターなど様々な楽器のアンサンブル。授業の合間を縫っての日程調整は大変ですが、「生の音や楽器にふられるいい機会とすれば」という一心で続けています。

奏者も楽しんでるのが長続きの秘訣



職業訓練校

株式会社 北海道ビジネスアカデミー専門学院

北区北7西4

その他 ■機会創出

自前の野菜販売店を立ち上げより効果的な職場実習の場
 関係各省市・団体の就職支援や人材育成関連事業の職場実習のために自前の野菜販売店「サニータイム」を立ち上げました。通常は他企業に受け入れてもらう実習について、同学院のこれまでのノウハウを活かし、目の届く直営販売店での効果的、実践的な訓練を行う試みです。

店では運営全般にかかわる経験を積む



証券業

上光証券株式会社

中央区北1西3

その他 ■機会創出

資産運用のコツ教えます 無料の出席セミナー開催
 資産運用を学びたい、始めたいという道民のニーズに応え、無料の出席セミナーを開催しています。講師は社員や社外専門家が担当。オリジナルのテキストを作り、規模や内容に応じて年100回程度実施しており、支店のない遠方エリアへの「出前」も積極的に行っています。

主婦の勉強会から大規模なものまで行う



コーヒー豆販売、喫茶店経営

ロイズコーヒーユニオン株式会社

中央区南21西10

教育 ■社員参加 ■技術提供

小中学生を店舗に招き職業体験学習を実施
 近所の小中学校からの要望で、店舗にて生徒の職業体験学習を実施しています。小学校低学年は質疑応答、同高学年、中学生はスタッフながらに接客やコーヒーを淹れる作業などの日常業務を手伝います。担当者は「働くことの喜びや面白さなどを感じてもらえれば」と語ります。

おいしいコーヒーの淹れ方にチャレンジ



清涼飲料販売

北海道キリンビバレッジ株式会社

中央区北11西19

その他 ■資金提供 ■物品提供

自動販売機を通してピンクリボン活動を応援
 乳ガンの早期発見、診断、治療の大切さを啓発するピンクリボン活動を応援しています。ピンクリボン自動販売機を設置するほか、イベントにも協力。この自動販売機の売上は販売店と同社で各1%ずつ、日本対がん協会ほほえみ基金に寄付されています。

市内に設置したピンクリボン自動販売機



● 本業を活かす

基金設置

灯具清掃修理

就労体験

保育園開放

電気・電気通信工事

エル電株式会社

東区北33東18

地域安全 ■社員参加 ■人材活用

**工事現場の周辺地域にて
防犯灯や電灯を清掃・修理**

「社業を通じて世間に貢献」を社訓とするエル電。地方での作業が長期にわたることがあり、休工日を使って工事周辺地域の防犯灯、バス停や公衆トイレの電灯清掃・修理、草刈りなどを行っています。「今後は札幌市内でも何か活動ができれば」と考えています。



地域を巡回し、清掃や電球の交換を実施

郷土料理店経営

札幌観光株式会社

中央区南3西4

その他 ■物品提供

**児童養護施設の子どもを
「杉ノ目」の会席に招待**

「きょうじ料理亭 杉ノ目」を経営する札幌観光では、市内数カ所の児童養護施設の子どもたちが高校を卒業し社会に出るタイミングで、杉ノ目の会席に招待し、フルコース料理を食べるときのマナーを指導しています。「お祝いと激励の意味を込めて行っている」と杉目幹雄代表。



杉ノ目で会席料理を
楽しむ卒業生たち

コーヒー販売、喫茶店経営

株式会社 宮田屋珈琲

清田区清田

教育 ■機会創出 ■技術提供

**小中学生向けコーヒー講座
豆の焙煎の見学も実施**

地元の小中学校からの依頼で、生徒を対象にしたコーヒーに関する講座を行っています。清田区本店でコーヒー豆の焙煎の様子を見てもらうほか、淹れ方や豆の産地、味などを宮田一也代表が自ら講義。「この研修が子どもたちの成長にいい刺激となればうれしいですね」。



生豆について生徒に
講義する宮田代表

調剤薬局、ドラッグストア運営

株式会社
アインファーマシーズ

東区東苗穂

教育 ■資金提供 ■機会創出

**医薬・医療分野で産学連携
5つの大学に寄付講座設置**

平成17年から総合大学の医学部にて寄付講座をスタート。全国5大学で7講座を実施するとともに、医薬に関する共同研究を行っています。同社では産学連携の取組を通じて、「医薬・医療の発展、次代を担う医療従事者の育成に寄与していきたい」と考えています。



東京大学医学科学研究所研究室の光景

保育園

社会福祉法人 陽光福祉会
光の子保育園

豊平区月寒東

子育て ■社員参加 ■機会創出

**保育園児と地域の親子が
遊ぶ場・つながる場を提供**

保育園に通っていない子どもたちを園児と一緒に遊ばせたり、親同士の交流、保育士とのふれあいを図るなど、保育園を知ってもらおう活動に取り組んでいます。「地域との交流を大切にし、保育の現場から情報を発信して、子育てを応援できたら」というのが同保育園の思いです。



にぎやかに園児と楽しく遊び

イチゴ生産、観光農園

株式会社 Snowberry Farm

南区豊滝

その他 ■機会創出

**ニートなどの若者に
働く機会・訓練の場を提供**

札幌市からの打診がきっかけで、2年前から就労機会が得られない若者などを訓練生として受け入れています。彼らは5カ月間、イチゴの栽培から出荷に至る作業を経験。「短期間だが忍耐力や精神力を養い、ここで培ったことを次に活かしてほしい」というのが同社の思いです。



イチゴ栽培を通して
忍耐力などを養う

靴小売

株式会社 アルファ美輝

中央区南1西7

その他 ■その他

**病院では教えてくれない
足にまつわる健康相談会**

「足や靴の悩みを抱えている人たちのかけこみ寺になれば」。健康靴を販売するアルファ美輝は、そんな思いを胸に、足の健康相談会を随時無料で行っています。スタッフ全員がシューフィッターの有資格者。病院では教えてくれない足や靴にまつわる知識を提供しています。

正しい靴の選び方や歩き方をレクチャー



建設コンサルタント

株式会社 エコテック

中央区北3西2

教育 ■技術提供

**川を知り、親しみ、学ぶ
子どもの環境学習を支援**

NPO法人水環境北海道が平成9年から主催する「千歳川かわ塾」。同社の妹尾優二取締役会長が塾長を務め、子どもたちに命の尊さや自然との共生などを学ばせています。「活動の基本は教育。知識よりも知恵を、また、困難にめげない精神的な強さを育てたい」と妹尾会長。

たも網を手に、川の生き物を調査中



広告代理店

株式会社 創文

中央区北3西2

スポーツ ■機会創出 ■技術提供

**北海道野球協議会の活動を
企画広報面で全面的に応援**

子どもたちが安心して野球に打ち込める環境づくりをと、NPO法人北海道野球協議会が設立した「北海道ベースボール子ども夢基金」を応援。寄付金を集める様々な企画を考え、実施しています。「次代を担う青少年の育成に少しでも貢献できれば」と木村明宏代表取締役。

各種グッズや印刷物の制作も同社が担当



自動車学校

株式会社 藻南自動車学校

南区川沿

地域安全 ■物品提供 ■技術提供

**高齢者の交通安全を目的に
ドライバークラブを設立**

町内会や札幌方面南警察署と連携し、高齢者に安全運転・交通安全を呼びかける組織として、平成21年9月「もなみシルバードライバークラブ」を設立。会員登録している地域の高齢者に向け、電動車いすの安全講習会や交通事故現場見学など、独自の企画を実施しています。

電動車いす講習会では実車の体験運転も



金融業

北海道労働金庫

中央区北1西5

その他 ■資金提供

**福祉、市民活動を後押し
独自の社会貢献助成制度**

創立50周年を迎えた平成13年度に「北海道ろうきん社会貢献助成制度」を創設。市民活動に取り組むNPOやボランティア団体に助成を続けています。助成先は年度ごとに募集をかけ、会議によって選定。平成22年度は42団体に計805万円の助成を行いました。

助成先のうち3団体を招き行った贈呈式



人材派遣、音楽教室運営

株式会社 ブライトサッポロ

中央区南1東2

文化芸術 ■人材活用

**イベント会場で
無料、ゴスペルライブ**

各方面からのボランティア出演要請に応えて、ブライトサッポロ音楽スクールの講師と生徒が、様々なイベント会場の講師と生徒が、様々なイベント会場、介護老人保健施設、病院などで無料ライブを行っています。演目はゴスペルが中心。ボランティアに参加できる歌い手は100人以上登録されています。

毎年盛り上がりを見せる雪まつりライブ





毎回さまざまなテーマで開催される教室。募集人数以上の申込みがある

「子どもの『理科離れ』が進むなか、電気事業とかかわりが深い科学技術の分野で、青少年の育成をサポートしたい」。そんな思いから、もともとは技術研究所だった建物を利用し、平成7年に「科学

電気・ガス

北海道電力株式会社

中央区大通東1

教育

■物品提供

小中学生向け科学実験、工作教室開催 専門部署による取組が成功の秘訣



写真はおもしろ実験室。参加者に向けた無料送迎バスも運行している

である「おもしろ実験室」を開設した北海道電力。土日や夏休みなどの休校日に小中学生向けの科学実験、工作教室を開催し、そのほかの日は同施設の図書コーナーなどを一般開放しています。教室への参加者は抽選で決定しますが、年々応募が増え、倍率はうなぎ上り。リピーターも多く、設立時に比べると年間の教室開催回数は倍以上になっています。木戸誠司館長はこの取組が成功していることについて、「専門部署を設けて行っていることがポイントでしょうか」と話します。



病院で通常業務をしながら、野生動物保護に取り組んでいる

開業以来、傷ついた野生動物の保護やリハビリ、飼養に取り組んでいる齋藤聡院長。北海道には野生動物が身近にいますが、保護収容施設や関連機構がなく、それが取組を始めた理由だといいます。

動物病院

有限会社 石山通り メディカルセンター

中央区南17西10

環境保全

■その他

野生動物の保護やリハビリへの取組 エゾシカやクマの捕獲も

講演会を行うなど活動の幅は広く、ここ数年はまちに出没するヒグマやエゾシカといった有害鳥獣を麻酔銃で眠らせ捕獲し、山に帰すこともしています。道内で対応しているのは齋藤院長のみ。完全なボランティアです。危険を伴い、けがをしたこともありましたが、「市民の安全を守るために」と続けています。このほか、世界各地で海洋油汚染事故の被害に遭った野生動物の救護にも携わっています。北海道では漁協組合や第一管区海上保安部と連携何かあった時にはすぐに駆けつける準備を整えています。



海の油汚染で被害に遭った動物の保護活動も。写真は講演会の様子



同社はフラワーショップの経営をはじめ、スーパー向け生花の卸売、ブライダル装花など、花ビジネスを広く手がけている

さぼーとほつと基金を通じて フリースクールとコラボレート 花育活動をより深め広げる機会に

「花を通じて子どもたちの豊かな心を育てたい」と、花育活動に積極的に取り組むブロックコーポレーションでは、フリースクール※と思いをひとつに花育事業を実施。札幌市の「さぼーとほつと基金」を活用した企業の新しい社会貢献の形です。

基金への寄付にとどまらず 講座などで生徒と直接交流

ブロックコーポレーションは平成21年、創業10周年という節目を迎えたのを機に、社会への恩返し
の気持ちから「さぼーとほつと基金」に指定寄付を行いました。指定先は札幌市を介して出合ったNPO法人フリースクール札幌自由が丘学園です。金銭的な寄付だけでなく、本業の技術や人材、早くから取り組んできた花育活動のノウハウを活かし、フリースクールジメメント講座や作品展など、学園の企画に全面的に協力。基金の

活用がコラボレーションによる花育事業へと結びつきました。

スタッフが派遣してのフリースクールジメメント講座はこれまでに4回実施。「花とふれあい、自由に楽しみ、その力を吸収してほしい」との思いで指導にあたり、生徒たちは地下街で自分の作品を発表することを目標に、楽しく、そして真剣に花と向き合いました。「もともとフリースクールで花育に関することをしたかった」と話す櫻井清隆常務取締役は、自身も講師を担当。「花をきっかけに何かをつかんでもらいたい。その

ことによって、外に向かって一歩を踏み出せるようになってもらえたらと強く思う」と話します。

互いに実りあるコラボに そして新たな挑戦へ

生徒にとつて講師とのふれあいや多くの人が鑑賞する作品展は、社会参加のきっかけとなる良い機会になりました。社内では社員教育にもつながり、活動に参加したいという声が多いそうです。思いをもつ同社と、子どもの可能性を引き出すことに力を注ぐフリースクール。両者の出合いの意義は大

生花小売・卸売

有限会社
ブロックコーポレーション

中央区北7西21

教育

■資金提供 ■人材活用

成功の秘訣

さぼーとほつと
基金を
活用する

きかったようです。「若い人の育成のために、広く企業に基金が活用されていけば」と櫻井常務。平成22年には、東出敏克社長と櫻井常務、賛同企業が集まり、NPO法人さつぽろ花育ネットワークを設立。さらに活動の幅を広げ、そして花の文化を育むための新たな挑戦が始まっています。



毎週月曜日の朝、社員全員がごみ袋を持って、ごみ拾いに精を出す

札幌発寒工業団地で自動車の整備・販売を行う丸八庄田商会は、毎週月曜日の業務開始前に、幹線道路から社屋へとつながる市道や新川堤防沿いの緑地で全社員参加による清掃活動を行っています。平成

自動車整備・販売

有限会社 丸八庄田商会

西区発寒

環境保全 ■社員参加

社員の社会人としての意識向上にも効果 後に工業団地の全体の取組に発展

「結果的に社員の社会人としての意識向上にもつながっている」と思わぬ効果があったことにも言及。同社の活動は35社が加盟する工業団地協同組合にも波及し、平成22年秋からは年2回ほど工業団地内で全社一斉に清掃活動を行うという動きにつながりました。

15年から開始したこの取組は、仕事から車に乗る機会が多い同社の中本圭洋取締役会長が、車中から、道路脇に散乱するごみの多さを感じたのがきっかけでした。中本会長は活動が長続きしている理由について「習慣化したのが良かった」と述べ、「結果的に社員の社会人としての意識向上にもつながっている」と思わぬ効果があったことにも言及。同社の活動は35社が加盟する工業団地協同組合にも波及し、平成22年秋からは年2回ほど工業団地内で全社一斉に清掃活動を行うという動きにつながりました。



工業団地協同組合で同社の活動が話題になり、団地全体の取組に発展



貸与された土地では、学年で区画を割り当て、ジャガイモなどを栽培

札幌市立石山南小学校に隣接する石山病院では、「子どもたちの学習の場として畑を借りたい」という学校側からの要望を受け、敷地内の土地を無償で提供。同小学校ではこの畑を「学校農園」として

病院

医療法人 社団 信洋会 石山病院

南区石山

教育 ■物品提供

作物栽培の場として小学校に土地を提供 畑から生まれたつながりと温かい交流

児童が収穫した野菜を持ってきたり、授業の一環で病院見学を訪れることもあるそうです。学校の取組のため、畑のことは「先生たちにおまかせ」。地域の子どもたちの成長を温かく見守っています。

整備・管理し、児童が様々な作物栽培に挑戦しています。このことについて「子どもたちに食べ物のありがたみや農家の人の苦勞を知ってもらえたらと思っています」と吉村淑子事務局長。また、小学校の岡田悌二教頭は「いい体験ができるようにという心も込めて貸してくれていることに感謝している」と話します。



広い畑で育てた「自分の野菜」を収穫する石山南小学校の児童たち